

これは、2010年1月8日にダイムラーAGから発表されたプレスリリースの日本語抄訳です。

ご参考

Press Information

2010年は電気自動車の年 — メルセデス・ベンツとスマートの 電気自動車3モデルを導入し、ラインアップを拡大へ

2010年1月12日

ダイムラーAGは今年、排出ガスを出さない電気自動車時代の皮切りとなる3つの量産モデルを導入します。このうち、最も新しいメルセデス・ベンツの電気自動車「Aクラス E-CELL」は、今年10月に導入の予定です。電気自動車としてはすでに、2009年11月より生産を開始している「スマート ed」のほか、燃料電池車の「メルセデス・ベンツ Bクラス F-CELL」も量産を開始しました。世界で初めて自動車を発明したダイムラーは、メルセデス・ベンツおよびスマートの3種類の電気自動車を投入することで、電動モビリティ時代の方向性を決定づけるとともに、個人モビリティの見直しを図っていきます。

ダイムラーAG取締役、リサーチおよびメルセデス・ベンツ・カーズ開発部門統括のトマス・ヴェーバーは「持続可能なモビリティを実現するうえで電気自動車が大きく寄与しうると考えています。今回、我々にとって初めてとなる量産電気自動車を市場投入するのもそのためです。ダイムラーは電動モビリティの分野においても、お客様のニーズに合った方式を提供することを目標としています」と述べています。

Aクラス電気自動車

ダイムラーの電気自動車としてはすでに、「スマート ed」と「Bクラス F-CELL」があり、いずれも2009年に量産をスタートしました。この2つのモデルに続くのが、2010年10月にラシュタットで量産開始予定の「Aクラス E-CELL」です。当初は500台の小規模生産を行い、少数のお客様へ4年間(または走行距離6万km)のリース販売を行う計画です。

新型「Aクラス E-CELL」は、メルセデス・ベンツ Aクラスをベースに開発されたもので、市販モデルとの外観上の違いは、特別なボディカラーを採用している点やテールゲートに「E-CELL」のエンブレムを備えていることなどが挙げられます。

電気モーターは、最高出力 70kW、最大トルク 290Nm と、十分なパワーを備えています。電源には最新のリチウムイオンバッテリーを採用し、航続距離約 200km を実現しました。バッテリーは A クラスの革新的なサンドイッチフロア内に置かれているため、居住空間やラゲッジルームにはまったく影響を与えません。

スマート ed、B クラス F-CELL に次ぐ適切な追加モデル

新型「A クラス E-CELL」は、現在のメルセデス・ベンツおよびスマートの電気自動車ラインアップへの追加モデルとして相応しいものであり、他のすべての電気自動車と同じく、主に市街地走行に適しています。また、「A クラス E-CELL」は電気自動車の草分けとして、すでに第 2 世代を導入済みの「スマート ed」を補完するモデルで、室内やラゲッジルームが制限されない本格 5 シーターとなっています。

新型「A クラス E-CELL」のバッテリーには、「スマート ed」、「B クラス F-CELL」と同様、きわめて高効率のリチウムイオンバッテリーを採用しています。航続距離はスマートでもすでに 135km と、かなりのレベルを実現していますが、A クラスではクラストップの 200km となっています。これに対して、燃料電池と電気駆動システムを搭載した「B クラス F-CELL」は、燃料を車内に積み込んでいることから、航続距離は約 400km と、ゼロエミッションの市街地走行に加え、より長距離の都市間走行にも適したモデルとなっています。燃料は水素で、タンクへの補給には全世界で標準化されているポンプノズルを使用し、補給に要する時間はわずか 3 分程度となっています。

電気自動車「スマート ed」は現在、フランスのハンバッチで 1,000 台の生産が進められており、当初は欧州 6 ヶ国、米国、カナダのお客様へリース販売を行う予定です。本格的な量産は 2012 年よりスタートし、日本市場にも導入する予定です。

一方、燃料電池車「メルセデス・ベンツ B クラス F-CELL」は 2009 年末より小規模量産（初回生産は約 200 台）を開始しており、今年、欧州および米国へ納車する予定です。



(左) 電気自動車「スマート ed」、(中央) 電気自動車「メルセデス・ベンツ A クラス E-CELL」、
(右) 燃料電池車「メルセデス・ベンツ B クラス F-CELL」